その一歩を踏み出しました

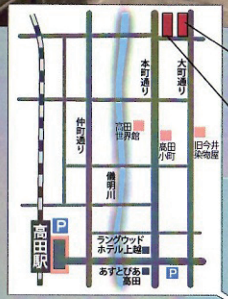
『瞽女ミュージアム高田』

瞽女のふるさと
雁木のまちに

斎藤真一
高田瞽女

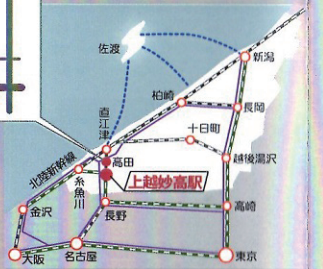
次世代に引き継ぐ ふるさとの風景

「麻屋高野」は昭和12年築の典型的な町家の造りで国の登録有形文化財です。その一部を瞽女ミュージアム高田として整備改修を行っています。
周辺には 町家交流館「高田小町」と近代化産業遺産の高田世界館をはじめ城下町高田に築かれた近世から近代の雁木の町並みが受け継がれています。



瞽女ミュージアム高田
斎藤真一作品・瞽女資料の展示
高田の雁木町家・麻屋高野公開

きものの小川
法人事務局 高田駅から徒歩10分



北陸新幹線 はくたか で 東京駅から 約2時間

上越妙高駅からトキめき鉄道乗換
新潟県上越市の高田駅へ7分

上信越自動車道・上越高田 IC
または 北陸自動車道・上越 IC から
高田駅まで 車で約12分

特定非営利活動法人
2013年 新潟県認証

事務局 連絡先

瞽女ミュージアム高田
〒943-0825 新潟県上越市東本町 1-2-33
Tel. 025-522-3400 Fax. 025-522-3413
事務局 小川
URL http://www.takadagoze.info/

ご来館にあたり、施設維持運営のための協力金をお願いしております。
一般 500円 学生 300円(団体割引あり) 障がい者 中学生以下 無料
関連の書籍とオリジナルグッズの販売を行っています。ご利用ください。

民俗学者の市川信次は、師の柳田國男のすすめで、瞽女を研究しながら親身に世話をしました。子息の**市川信夫夫妻**がそれを引き継いで、貴重な記録写真と史料、瞽女をきっかけとして交流した人々の記憶が、高田に残されています。

1964年 高田で最後の瞽女親方**杉本キクイ**と、養女の杉本シズ、弟子の難波コトミの3人が、旅巡業をやめる。
同年12月、画家**斎藤真一**は、高田の杉本キクイを訪ね、彼女の人間性に深く感銘する。瞽女の旅路を追体験する中で、多くの作品と著作を発表する。

1970年 文化庁は瞽女唄と杉本キクイを記録保存を講ずべき保持者に選択する。(無形文化財)
東京での**「越後瞽女日記展」**が評判となり、瞽女を主題とする映画・演劇が次々に発表される。

1972年 **池田敏章**氏は京都の画廊で、初めて斎藤真一作品と出会い、作品蒐集の道に踏み出す。

1983年 杉本キクイが亡くなり、残された二人も、胎内やすらぎの家に入所するために、高田を離れる。

1994年 斎藤真一が亡くなる。

1997年 **「斎藤真一が描く高田瞽女 越後瞽女日記展」**を上越市立総合博物館で開催。池田氏は初めて当地を訪れ関係者と交流する中で、作品の価値を再評価し、研究者の道を目指す。

2008年 池田氏が蒐集作品と資料の永久的な保存と公開を願い、寄贈先を求めて上越市を再訪する。

2009年 **市川信夫**をはじめとして、瞽女と斎藤画伯に心を寄せる有志が集まり、上越市への寄贈を求める署名運動を行う。さらに瞽女についての啓発活動のため**「高田瞽女の文化を保存・発信する会」**を設立するとともに、雁木町家を会場として池田コレクション展覧会を実施。以降、国や上越市、民間財団等の助成を受けて、瞽女文化の発信を続ける。

2011年 池田氏が上越市に作品・資料の寄贈を決意する。

2012年 上越市は寄贈を受けて、「池田敏章コレクション・斎藤真一と瞽女」展を開催する。

2013年 本会は常設展示を目指してNPO法人を組織し、関係先との協議を進める。

2015年 その中で、作品展示と資料公開のために、雁木町家**「麻屋高野」**の利活用を図り、**上越市歴史的建造物補助事業**を受けて、第1期整備改修を実施する。あわせて、**新潟ろうきん福祉財団NPO等助成**により、展示ケース2基を導入する。ご賛同者からも資料と絵画作品をお借りして、11月3〜23日に開館記念展覧会、その後も週末公開の常設展を継続している。